



## みぬまニュース

### 第10回 見沼たんぼくらぶウォークラリー 10月13日(月) 体育の日

朝から好天に恵まれ絶好のウォークラリー日和のなか、友達連れ、ご夫婦、家族連れ、いきがい大学の学生の方々など、総参加者数27組85名と大勢の方のご参加を頂いた賑やかなイベントとなった。

開会式の後、ゼッケンをつけて各組が順次スタートし、コース図を見ながらススキの揺れる秋の見沼たんぼをグループの方々とコミュニケーションを図りながらゲームや課題に楽しく取り組んで頂いた。

初めてウォークラリーに参加してコース図を読み取れず、迷った方々がおられ、コースも約8kmとやや長かったこともあって、少し疲れた方も見られたが、全員の方に無事にゴール頂き、参加された方からは見沼たんぼの秋を堪能できてとても楽しかったとの声が聞かれ、やりがいを実感することができた。(運営委員：森田益行)



ウォークラリーの様子

### 農園づくりから『サツマイモづくり体験』 収穫 10月19日(日)

今日は、待ち遠しかったサツマイモの収穫の日です。天候に恵まれ、収穫には絶好の天気です。今年は、雑草の生育が早く草取りに悩まされました。

このため7月と9月に2日間、合計370人前後の皆さんに草取りに汗を流してもらい、ようやく収穫の日を迎えたのです。

一部の皆さんは気がはやったらしく開会前から掘り出す方々もいて、落ち着かない雰囲気でも開会式が始まりましたが、恒例となった「私の掘出した一番大きなサツマイモコンテスト」の表彰



サツマイモの収穫

式が行われ、約1.8kgのサツマイモを掘出した男の子が賞品の「コバトンぬいぐるみ」を受取ると、参加した皆さんから盛大な拍手が起こるなど、和やかな雰囲気の下、閉会することができました。

今年収穫されたサツマイモは、例年より小ぶりだったようですが、スリムな形で「今風」だったのではないのでしょうか。(小林)

### 第64回 見沼塾 『和風をつくる・あげる』 12月7日(日)

快晴・微風の中、親子総勢21人が参加し、和風を作りました。

竹ひご・和紙・糸を用いての製作で、参加者全員が初めて和風を作る経験をしました。

完成時には横37cm・縦48cmの風になりますが、竹ひごの組み方や和紙の貼り方で少しずつサイズ・バランスが違う風ができ、それが手作りの“おもしろさ”だと参加者も気づきました。風が弱めでしたので糸目は風を多く受けやすいように上端から下へ15cmにつけ、尻尾は120cmを基本にしてそれぞれでバランスを見ながら調整し、全員の風が見事に空に舞いました。(浦和くらしの博物館民家園)



竹ひごと和紙で和風をつくりました

### 見沼たんぼの四季 『冬の雑木林』

見沼たんぼの低地と台地を結ぶ斜面には、市街地では少なくなってしまう雑木林が残されており、「見沼たんぼの斜面林」として親しまれています。

斜面林にはコナラ、クヌギ、イヌシデなどの落葉広葉樹が多いため、冬が来ると林内は夏よりも明るくて爽やかな景色になります。いつまでも見沼たんぼに残していきたい風景ですね。(林)



大和田緑地公園の雑木林(11月下旬)

# 見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼには、四季折々の美しさを感じられる自然や、文化や歴史により育まれた風景など、魅力的なたくさんの見所があります。ここでは、そんな見沼たんぼの見所を紹介します。

## 見沼たんぼ学習交流バスツアー

秋晴れの天気にも恵まれる中、33名の皆様が集まり、三富新田を訪れました。見学コースはおよそ3.5kmの距離でした。現地では、埼玉県環境アドバイザーの田村博一先生が案内をして下さいました。

旧島田家住宅は、平成8年に移築復元工事が完成して開館した茅葺寄棟造りの住宅で、明治7年(1874)まで、島田伴完先生によって寺子屋が開かれた住宅です。直ぐ近くに上富小学校があり、その屋上から、三富新田の「地割」の様子を一望しました。

所沢市、三芳町にまたがる三富新田は、江戸時代に柳沢吉保によって原野を開墾し、水田ではなく、畑地にした所です。1軒当たりの区画は間口約72m、奥行き約675mで、屋敷地、農地、平地林と短冊状の地割になっています。現在も首都圏の農産産地とし、多くの野菜を生産しています。



三富新田の地割

また、開拓当時から代々農業を受け継いでいる早川さんの農地を見学させて頂きました。庭に立つと、住宅の奥には畑が見え、さらに遠くには平地林が見えます。広大な畑に足を踏み入れると、サツマイモが植えてあり、丁度、収穫期を迎えていました。

平地林に入るとイヌシデ、コナラ、クヌギ等々が鬱蒼と生い茂り実に気持ちが良い。これらの樹木の落ち葉は、集められて堆肥として使用されており、昔ながらの農法を受け継いでいるとのことでした。

その後を訪れた多福寺と多聞院では、これらの寺院が柳沢吉保の建立によるものとの説明がありました。新田に入植した人たちは出身地が異なるために、一体的なまとまりや連帯感を高める必要があったので、建立されたのでした。

この日見学した一带は雑木林に包まれており、秋の木洩れ日を浴び、清々しい一日となりました。三富は、東の見沼たんぼ、西の狭山丘陵と合わせて、首都近郊の貴重な緑地として注目を集めているところで、散策を楽しむ人が多いとのことでした。

(平成20年10月12日 召田)

## 見沼の藁塚「フナノ」を50年ぶりに復元

秋の田圃、かつては稲刈り後、稲を干すはざ掛け風景があちこちで見かけられました。そして農家では脱穀した後の藁を保存するためにポッチとかノウ、ワラグロなどと呼ばれた藁塚を作り、藁は家畜の飼料や竈の燃料に、また米俵やムシロ、縄、畳や様々な生活の道具の材料として、更に田畑の肥料として、余すことなく大切に利用されてきました。このように藁は稲作の副産物ですが、お正月のしめ縄や神社の飾りなどにも使われているように日本人の精神世界に深く関わりを持ち、世界に類を見ない「藁の文化」を形成してきたと言われていました。そして今、農作業の機械化や生活様式の変化などで稲作の方法が変化しただけでなく、大量消費社会の出現が「藁の文化」を過去のものとして消しつつあります。

昨年秋、埼玉県立近代美術館で「でんえんさんか田園讃歌」とのタイトルで美術展が開催され、その一環で島根、大分、愛媛の藁塚を作成した際、当会が見沼たんぼの藁を提供したのがきっかけとなり、埼玉の、見沼の藁塚が無いのが残念、ぜひ来年は自分たちで作りたい、ということになりました。

かつて見沼周辺で作られていた藁塚「フナノ」。今はそれを作れる人が殆ど居ず、やっと見つかった片柳や膝子、越谷の農家さんに協力して頂けることになりました。50年ぶりのフナノの復元です。藁は見沼の約6反の田んぼから約10tを運び、膝子コスモス祭りの会場をお借りし、2日かけて作りました。

縦4m横1.8m高さ2.7m。屋根の両脇には獅子頭ししづを模した飾りもついたフナノ、名の由来は舟形をしているからと、それを裏付けるような楕円形のフナノが見事に完成しました。



このフナノ作りを通して、今日の生活を見直すためにも貴重な「藁の文化」を継承していかなければと思います。(NPO法人見沼ファーム21 島田)



## 見沼たんぼの植物

### — 稲刈りの後の彩り —

稲の切り株から萌え出る芽のことを「ひこばえ」という。稲が秋に稔り、収穫のため刈り取られた後に生える「ひこばえ」を「ひつじ」という。「ひこばえ」まで独自の名前を持つのも珍しいが、稲はインド北東部のアッサム地方から中国にかけての地域が原産地と考えられ、日本には弥生時代に稲の耕作が始まるようになり、以来米を主食とする文化が定着したことによるものだろう。

「ひつじ」を漢字では、「穧」であり音読みでは「ロ」とも読むが、訓読み「ひつじ」の語源は「日本国語大辞典（小学館）」によれば、「ヒッチ（乾土・干土）の義・刈った後の水を落とした後に生えることから」の説がみられる。稲を刈り取った後に芽が萌え出るのは、祖先種の多年草の性格を受け継いでいるとされている。「ひこばえ」は、多年草のイネ科の野草で刈り取られる毎に矮小化がみられる。「ひつじ」も同様である。稲の収穫時、概ね、茎の長さ 100cm 程度、1 株の本数 20 本程度、穂の粒数 100 粒程度であるが、「ひつじ」につき、見沼 1 丁目の水田などで 11 月上旬に少数の事例調査では、穂を持つ茎

の長さ（10 例）：最小 34~ 最大 48cm・平均 40cm、株の本数（30 例）8~38 本・平均 19 本、穂の粒数（65 例）14~62 粒・平均 39 粒である。これは稲に対して、株数を別にすれば、茎の長さ・穂の粒数は半数以下



ひつじ（穧）

に劣っているのが分かる。ただ、水田の中央より畦沿いの方が生育は良いようである。「ひつじ」は、「古今和歌集」にも詠われ、又、俳句では秋の季語として吟じられているように、長い間人々に親しまれて来た美しい田園風景である。しかし、この穧田も 11 月下旬には寒さで枯野へと移って行くが、稔りを持つ穂は野鳥などに越冬のための貴重な食料を提供する。11 月上旬の畦には、花を付けている野草があり、イヌタデなど 10 種程度は見つかる。（若野忠男）

## 見沼たんぼの動物

### — 見沼田圃の水辺の帰化動物 —

見沼田圃の水辺には帰化動物のカダヤシ、ウシガエル、ミシシippアカミミガメが目立ってきている。

カダヤシは日本脳炎を媒介する蚊の幼虫（ボウフラ）を食べてくれるので導入されたが、メダカは卵から孵るのに対して、これは胎児で生まれるため環境悪化してもどんどん増殖している。



カダヤシ

ウシガエルは食用として導入、養殖されていたが、野生化している。また、ウシガエルの養殖用エサと

して導入されたアメリカザリガニが増え、それを防止するための農薬散布により、田圃の生物多様性が失われつつあるのが現状である。



ウシガエル

ミシシippアカミミガメは、その子ガメは縁日等でよく売られているミドリガメで、それが大きくなると飼いきれず、野に放たれ野生化している。

このように帰化動物の増える原因は、①飼いきれずに野に放たれること、②良かれと考え導入したが思いもよらない方向になること、③逃げ出したこと等である。蔓延しないうちに早い段階での駆除が必要と考える。（長澤義則）

# 見沼たんぼ 水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木一郎



「大宮 氷川神社参道」

一の鳥居から三の鳥居まで約2kmに及ぶケヤキ並木が続く参道は、参詣の人々の多さに似ず静寂な道のり。若葉の頃はひととき爽やかな風を感じる。

08・4・16 画。



「さぎ山記念公園」(さいたま市緑区)

白鷺の生息地を記念して昭和61年5月設立された公園で、白鷺を刺んだ日時計が建つ。徳川吉宗の時代、水田開墾により好物の餌を求めて巣を群れてつくるようになったのが初めといわれ、最盛時には6千個の営巣があったが、その後水田の減反・農薬の使用などで餌がなくなり、昭和52年には営巣はみられなくなった。

08・4・25 画。



「浦和くらしの博物館・民家園」(さいたま市緑区)

旧野口家住宅は、150年前の幕末に建てられたもの。かつて緑区大谷口の寺の庫裏として使われていたという。06・6・1 画。



「玉蔵院」(さいたま市浦和区)

平安時代頃の創建とつたえられる古刹で、現在の伽藍は、元禄期以降のもので、画面の門は最近たてかえられた。07・8・12 画。





# 新釈見沼民話 見沼の竜の語り草

宮田正治

## 見沼弁財天宗像神社（後編）

若者は悲しみをこらえ、とぎれとぎれに話してくれた。

「お宮はこういったのです。『わたしの病気は、あなたがいくら祈ってくれても、看病してくれても、なおるはずないのです。見沼の竜神様が、わたしを連れて行こうとしているからなのです。わたしを見初めた竜神様は、どうしても手放してくれないのです。竜神様にはさからえませぬ。わたしのことはあきらめてください』と」

変な話なので、わしはこういったんじゃ。

「うーむ。話としてはわからなくもないが、見沼の竜神が人間の娘を欲しがると、考えられないですな。ましてや、ひとの恋仲を引き裂いてまで……」

「ですが、お宮はこうもいいました。『わたしたちが、見沼の岸边にたびたび出かけていったのがいけなかったのです。見沼から帰ったあと、竜神様の化身が枕辺に立っているいろいろなことをいう夢を見てから病の床に臥し、起きられなくなったのですから』と。あんまり仲がよかったので、竜神様がねたんだのにならぬありません」

「あなたは、そんな夢を信じるのですか？」

「夢を信じるのではなく、お宮のこぼれ話を信じます。お宮は、『三日ともたない命です』といいますが、三日目にあの世に旅立ちました。竜神様のもとに召されたのです。わたしは、あきらめるよりほかはないのです」

「では、さぞ、その竜神が憎いでしょうな」

「はじめは憎いと思いましたが、けれども、見沼の竜神様を怨むわけにはいきませぬ。わたしは、お宮の幸せを祈ることに徹しようと……」

若者はつぶやくように目をつぶったのじゃ。努力していたのじゃな、わしを怨むまいとして。そこで、わしはいつかのじゃよ。

「あなたのような、心の広い、やさしい人に愛されて、お宮さんは幸せじゃ。わしは一介の旅人にすぎないが、あなたのために何かをしたい。どうでしょう？ お宮さんのこの弁財天社を、村人もお参りしやすいように整備しようじゃありませんか」

「どのようにしよう？」

「うむ。まず、参道を少し広げましょう。人が擦れちがいでいる程度に……。そして、鳥居を立てましょう。それから、祠のまわりを囲む形に池を掘り

ましよう。弁天様は弁舌・財宝・芸能の神ですが、もともと水の神であるのですから……」

「そうなのですか。何も存じませぬで……」

「お若いのですから、それでいいのです。次にご神体ですが……」

「恥ずかしながら、お宮をかたどって、わたくしが……」

「拝見しました。りっぱなものです。まさしくお宮弁天ですな。そのお宮弁天に、どうでしょう？

九州筑前の宗像三神、あの弁天様を合祀しては……」

「あ、それはすばらしい思いつきです。お宮は喜びましょう」

「そうですな。村人たちも、お宮弁天とともに宗像大社の神様まで拝めたら、ご利益は二倍も三倍もあると思うでしょうな」

「はい。ですが、これは容易なことではありませんね。資金もありませんし……」

若者はなかなか慎重じゃった。九州の神を分祀するためには、九州まで出かけねばならぬ。その資金を心配しているのじゃった。そこで、わしはこういつて励ました。

「托鉢に出ましよう。多くの人々に協力してもらうのが、あととのためにはいいのです。あなたは先ずこの村の人々にわけを話して、知恵や力を貸してもらいなさい。それから、近いところから順に托鉢してまわりなさい。わたしは、九州まで足を伸ばして、筑前の宗像三神をめぐる、分祀の証を頂戴してきましょう」

若者は喜んだ。大きな目標ができたわけじゃ。

こうして、若者とわしとで話し合っただけで決めた計画は順調に運び、翌々年の三月、現在のような弁天社が竣工したのじゃった。

その後、あの実直な若者はここを離れることなく、弁天社を守って生涯を終えたのじゃった。それからな。新右衛門新田の村人たちは、この弁天社を村の鎮守と定め、今の世にいたるまで守り伝えてきたのじゃよ。

近くを通ったなら、ちょっと寄ってみてはどうじゃろうかな？ 悲しいけれども美しいものを感じるお宮だと思ふがな。これできょうのお話はおしまいじゃ。（前編から続く。見沼文化の会発行「竜のひげ」第3号から転載）

# 見沼たんぼの仲間たち No. 12

見沼たんぼでは、いろんな仲間たちが、見沼の自然を愛し、守り、魅力を伝えるなどの活動をしています…。ここでは、そんな団体の活動内容を紹介していきます。

## 見沼ウォーク実行委員会

### 優れた景観を誇る歴史的農業用水・見沼代用水を歩く

#### 「疏水百選」秋風さわやか水と緑あふれる見沼ウォーキング

10月25日(土)、J R東日本の「駅からハイキング」との共同企画による『「疏水百選」秋風さわやか水と緑あふれる見沼ウォーキング』を実施しました。

このウォーキングは、「疏水百選」に認定された見沼代用水路をはじめとする農業用水や農業・農村のPRとともに、地域農業者と都市住民との交流を図ることを目的に平成17年度から開催しています。

第4回目となる今年は、「川の再生元年記念ウォーク」と銘打って県で今年度から重点的に取り組んでいる「みどりと川の再生<sup>\*</sup>」のPRイベントの1つとして開催されました。当日は、心配された雨もあがり、曇り空の中、約1000名と多くの方々に参加いただきました。参加者は、水土里ネットさいたまより提供されたミネラルウォーター「水源樹(みずげんき)」500mlを受け取り、J Rさいたま新都心駅から昨年より4km長い13kmのコースをゴール目指してスタートしていきました。

※ 埼玉県では、今年度から、森林や身近な緑の保全と創出、県内の川の清流復活と安らぎとにぎわいの創出を目指す「みどりと川の再生」に取り組んでいます。(川は「河川」のほか、「農業用水」、「湖沼」を含みます。)



見沼代用水沿いを歩く

#### 見沼代用水の歴史に触れながら

見沼代用水路は、埼玉県東南部から東京都に至る水田を開発するため、1200haの巨大な見沼溜井<sup>みぬまためい</sup>を干拓した代替えの用水として、江戸時代中期<sup>きやうほう</sup>の享保

13年(1728年)に井澤弥惣兵衛<sup>いざわやそべえ</sup>為永<sup>ためなが</sup>が利根川から取水する水路を開削したものです。

コースでは川の再生事業の実施地区である見沼代用水東縁沿いでアンケートを実施したり、主要地点ではスタッフが道案内と見沼代用水の説明を行い、参加者は見沼代用水の歴史に触れていました。

#### ゴール地点では楽しいイベントも

ゴールの見沼自然公園では、参加者に、埼玉生まれで埼玉育ちの新米「彩のかがやき」が実行委員会よりプレゼントされるとともに、公園内に建立された井澤弥惣兵衛為永の銅像を囲み、地元自治会等による農産物の直売、見沼地域に伝わる伝統芸能「見沼太鼓」の小中学生の演奏、ボランティア団体「紙こぼこ」による紙芝居などのイベントで参加者との交流を深めました。

さらに、見沼たんぼで農業体験等に取り組む「N



小中学生による「見沼太鼓」の演奏

PO法人水のフォルム」代表の藤原悌子氏により「見沼代用水こそ生きた歴史遺産」と題した小講演も行われ、参加者や地域住民は、講演に熱心に耳を傾けていました。

参加者は見沼代用水路の歴史・役割を認識し、都市近郊でありながら自然が残る見沼たんぼなどの景観を愉しむとともに、地元住民による手づくりの交流イベントに感激し、帰路につきました。

見沼ウォーク実行委員会(見沼代用水土地改良区、(独)水資源機構、水土里ネットさいたま、埼玉県)

## 浦和博物館

住所：さいたま市緑区三室 2458 電話：048-874-3960  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示活動

#### ① 企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」

期間：平成20年12月13日(土)～平成21年4月12日(日)  
内容：今の小学生の父母・祖父母が、子供のころに使った道具の変化を展示。小学校3年生向け。

### 2 教育普及事業

#### ① 昔のあそび

期間：1月10日(土)～12日(月・祝)、3月21日(土)、22日(日)  
時間：10時～15時(雨天中止)  
内容：竹馬、ベーゴマ、おはじき、竹とんぼなどに挑戦/費用：無料

#### ② 昔のおもちゃづくり

日時：1月12日(月・祝) 10時～12時、13時～15時  
内容：フィルムケースで作る回転するパレリーナ  
費用：50円・当日申し込み

### 3 三室地区定例探鳥会

日時：1月18日、2月15日、3月15日(毎月第3日曜日)  
9時00分～12時00分(雨天中止)

集合：9時に浦和博物館

場所：浦和博物館周辺の見沼たんぼ

主催：日本野鳥の会埼玉支部

参加費：高校生以上100円、小・中学生50円

## 浦和くらしの博物館民家園

住所：さいたま市緑区下山口新田 1179-1 電話：048-878-5025  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

#### ① 小正月のまゆ玉作り

日時：1月11日(日) 10時～12時  
内容：ミズキの枝に団子をつけ五穀豊穡を願い家に飾る。  
費用：無料/対象・定員：小学生以上20人(親子可)  
申込み：1月4日(木)より電話で民家園へ

#### ② 木の実を使ったコマ作り

日時：1月31日(土) 10時～12時  
内容：民家園で採集した木の実を使ってコマを作ります。  
費用：100円(材料費)/対象・定員：小学生以上20人(親子可)  
申込み：1月8日(木)より電話で民家園へ

#### ③ 探鳥会

日時：2月1日(日) 9時～12時(雨天中止)  
集合・解散：民家園/内容：民家園周辺でバードウォッチング  
講師：日本野鳥の会埼玉支部  
対象：一般(小学生以下は保護者同伴)/定員：なし  
参加費：中学生以下50円、高校生以上100円  
持ち物：筆記用具、双眼鏡(持っている人のみ)

#### ④ 企画展示「見沼の蝶」

日時：2月1日(日)まで開催中  
内容：民家園周辺で近年採集した蝶を中心に展示。温暖化の進行を裏付ける蝶の標本等を紹介しています。

#### ⑤ 見沼塾「和紙を漉く・作る」2日で行う講座

日時：3月7日(土)・8日(日) 9時30分～12時  
内容：和紙職人の指導により、和紙を漉き、作品を作ります。  
費用：600円(材料費)/対象・定員：小学生以上20人(親子可)  
申込み：2月5日(木)より電話で民家園へ

## 旧坂東家住宅見沼くらしっく館

住所：さいたま市見沼区片柳 1266-2 電話：048-688-3330  
開館時間：9時～16時30分 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 主催事業

#### ① 歴史講座(定員あり/無料)

イベント	月日	時間	定員
歴史散策「片柳をあるく」	3月20日(祝)	9時-12時	20名
自然散策「加田屋の生き物」	3月27日(金)	9時-12時	20名

#### ② 趣味・教養講座(定員あり/無料)

イベント	月日	時間	定員
ハーモニカ講座	1月21日(水)	10時-11時半	8名
結びの講座	1月22日(木)	14時-15時半	8名
のし袋を作ろう!	1月23日(木)	14時-15時半	8名
とんぼ玉・管玉作り	2月10日(火)	10時～12時	8名
篆書を彫る	2月11日(祝)	14時～16時	8名

百人一首散らし書き講座	2月17日(火)	14時～16時	8名
ペン習字講座 永字八法を学ぶ	2月18日(水)	14時～16時	8名
ぐい呑み作り	2月24日(火)	10時～12時	8名
凧糸で作るランプシェード	2月26日(木)	14時～16時	8名
韓紙皿作り「寿」	3月12日(木)	14時～15時	8名
韓紙皿作り「福」	3月19日(木)	14時～15時	8名
韓紙箱作り	3月26日(木)	14時～16時	8名
赤本を読む「金太郎」	3月27日(金)	14時～15時	8名
オープン粘土で何かを作ろう	3月31日(火)	9時半-12時	8名

#### ③ 公開講座(定員なし/無料)

加田屋の七草粥	1月7日(水)	10時～11時
小正月の作花・蘭玉作り	1月15日(木)	10時～12時
歌い初め「幼き思い出の歌」	1月16日(金)	14時～16時
旧正月の投扇遊び	1月25日(日)	10時-11時半
節分のヤッカガシ	2月3日(火)	14時～15時
初午のしみづかり	2月6日(金)	10時～11時
東風吹かば思い起こせよわらべ歌	2月13日(金)	14時～16時
声重なり桃花咲き揃う	3月13日(金)	14時～16時
弥生三月昔語りに花ほころぶ	3月15日(日)	14時～16時
旧暦「桃の節供」菱餅作り	3月29日(日)	13時～15時

#### ④ 親子教室(定員あり/無料)

凧作りと凧揚げ(小学生の親子) 1月18日(日) 10時～12時 10組

### 2 企画展示

「結びの造形」	1月20日(火)～1月25日(日)
「祈りの面」	1月27日(火)～3月1日(日)
「壺と甕」	3月3日(火)～3月29日(日)

### 3 季節展示

「恵比須講(出びす様)」	1月20日(火)～1月25日(日)
「節分飾り」	2月3日(火)～2月8日(日)
「初午飾り」	2月6日(金)～2月15日(日)

## 農業者トレーニングセンター(園芸植物園・大崎公園・子供動物園)

住所：さいたま市緑区大崎 3156-1 電話：048-878-2026  
開館時間：10時～16時 休館日：月曜日(祝日の場合、翌日休館)

#### ① 第8回さいたま市洋らん展

期日：平成21年2月6日(金)～2月8日(日)  
会場：さいたま市園芸植物園花き展示温室/対象：一般市民の方  
内容：洋らんの展示、即売、園芸相談など

#### ② 子供動物園お正月クイズラリー

日時：1月4日(日)と6日(火) 午前11時～15時(受付時間)  
会場：子供動物園(大崎公園)/対象：小学生以下の方  
内容：園内のポイントで動物問題を解いてその答からパスワードを見つめます。正解者に記念バッチをプレゼントします。  
費用：無料/申込み・問合せ：当日直接動物園内受付へ

## 大宮公園事務所「大宮第2公園・公園ギャラリー」

住所：さいたま市大宮区寿能町 2-405 電話：048-645-9605  
開館時間：8時30分～17時  
休館日：毎月第1・3・5月曜日(祝日の場合、翌日休館)

### 1 展示会 ※詳細は、直接事務所にお問い合わせください。

大宮公園ネイチャーフォト展	(現在開催中)～1月11日(日)
大宮公園梅の花図鑑	1月6日(火)～1月25日(日)
大宮公園写生大会作品展	1月12日(月)～2月13日(金)
おしば美術展「散歩道だより」	1月26日(月)～2月8日(日)
障害者交流センター写真展	2月9日(月)～2月22日(日)
さいたま緑の外写真コンクール入賞作品展	2月17日(火)～2月26日(木)
禅画作品展示即売会	3月3日(火)～3月15日(日)
埼玉県都市公園写真コンクール入賞作品展	3月3日(火)～3月15日(日)
植物画の作品展	3月17日(火)～3月22日(日)
春の山野草展 展示即売	3月19日(木)～3月22日(日)
書道・水墨画の展示	3月23日(月)～3月29日(日)
フジイシモン作品展	3月23日(月)～3月29日(日)

### 2 第25回大宮第二公園梅まつり

日時：2月13日(金)～3月1日(日)  
内容：全国大陶器市…2月13日(金)～2月20日(金)  
工作体験教室…2月14日(土)・2月15日(日)  
演奏会…カサ・ギター：2月14日(土)、リード：2月15日(日)  
佐々木洋の自然観察会(冬編)…2月15日(日)(定員30人)  
茶席・呈茶…2月28日(土)・3月1日(日)(有料)

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 第66回見沼塾 『加田屋の七草粥』

日 時：1月7日（水） 10：00～11：00  
場 所：旧坂東家住宅見沼くらしっく館  
内 容：伝統的な「七草粥」の実演講座  
申 込 み：なし  
参 加 費：なし／一般公開  
そ の 他：旧坂東家住宅見沼くらしっく館との共同実施  
で す。  
問 合 せ：TEL(048)688-3330（くらしっく館）

### 第68回見沼塾 『和紙を漉く・作る』

日 時：3月7日（土）、8日（日）  
9：30～12：00  
場 所：浦和くらしの博物館民家園  
内 容：和紙職人の指導により楮紙を漉き、作品を作る。  
申 込 み：2月5日（木）より電話で民家園へ  
参 加 費：600円（材料費）  
そ の 他：浦和くらしの博物館民家園との共同実施です。  
問 合 せ：TEL(048)878-5025（民家園）

### 第67回見沼塾 『初午のしみづかり作り』

日 時：2月6日（金）10：00～11：00  
場 所：旧坂東家住宅見沼くらしっく館  
内 容：行事食「しみづかり」の実演講座  
申 込 み：なし  
参 加 費：なし／一般公開  
そ の 他：旧坂東家住宅見沼くらしっく館との共同実施  
で す。  
問 合 せ：TEL(048)688-3330（くらしっく館）

### 第36回自然観察ハイキング 『見沼の自然と史跡を訪ねて』

日 時：3月28日（土）9時～12時30分  
集 合 場 所：JR武蔵野線東浦和駅前広場集合  
（さいたま市立病院前解散）  
コ ー ス：東浦和駅前⇒大間木氷川神社⇒清泰寺⇒見沼  
代用水西縁⇒大牧自然緑地⇒見沼氷川公園⇒  
氷川女体神社⇒さいたま市立病院前  
内 容：自然観察指導員のガイドで野の花や樹木を観  
察し、神社仏閣を見学します。  
申 込 み：当日、東浦和駅前広場で8時30分から受付  
参 加 費：¥500（会員及び中学生以下は無料）  
問 合 せ：TEL（048）683-1764・小野

## 事務局よりお知らせ

見沼たんぼくらぶでは、平成19年11月に開館したさいたま市中央図書館に「見沼たんぼの図書コーナー」を創設するため、見沼たんぼに関する図書の寄贈をお願いしています。図書を寄贈して下さる方には手続きの資料をお送りしますので、下記事務局までご連絡下さい。

**「見沼たんぼくらぶ」をお友達に紹介してください！「見沼たんぼ」を愛する仲間を増やしましょう！事務局から入会案内をお送りします！**

〔編集・発行〕見沼たんぼくらぶ  
〒337-0053  
さいたま市見沼区大和田町1-2124-3 小野方  
TEL・FAX：(048) 683-1764  
URL：http://minumatanbo.web.fc2.com/

見沼たんぼくらぶ会長  
野崎 初太郎